

オアシスの森くらぶ

ニュースレター18号 2003. 5. 24発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 永田 修二
編集人 近藤 眞史
編集長 五十川 幸夫

4月定例活動「総会&小屋周辺クリーンアップ」

村田 英二

4月26日午前中の総会（総会報告は最終ページに掲載。）に引き続き午後から約2時間炭焼き小屋回りの植生管理を行いました。

人数は10人もいなかったですが、小屋回りの各自好きな場所で作業に取りかかりました。

私は小屋とトンボ池を結ぶ道周辺の管理をすることにしました。

道は車が通れる幅がありますが、木々が道に覆い被さり車の通行に多少支障を来しており、見た目にも手入れが不

十分な感じてした。

そこで覆い被さった枝を落とし、道に侵入してきている草を刈り道路脇の木の間に侵入している竹を除伐しました。（私の場合は竹を切るのが主です。）

このあたりの竹は相生山では珍しいマダケです。作業の事前に、真弓さんからは貴重な竹なのであまり切らないようにとの話でしたが、従前からある木を残すか侵入してきた竹を残すかは難しい問題です。相当数の竹を切った

と思います。

久しぶりのノコギリ仕事は楽しく、あっという間に時間が過ぎました。

作業終了後に改めて現場を点検し、随分きれいになりました。植生管理は森くらぶの原点ですが、この作業を実際に行くとその必要性をととても感じます。作業を終えた他のメンバーも満足そうでした。

今年の年間計画には植生管理のメニューが多くあります。次回はもっと多くの人が参加してくれると嬉しく思い

今年も参加しました！ “メ～テレ春まつり”

4月12日（土）、13日（日）の両日、毎年恒例の“メ～テレ春まつり”（昨年までは“ナゴヤテレビ春まつり”）が久屋大通公園にて行われました。

以下の報告は両日の参加者を代表して中島ひろみさんと伊藤晶子さんから寄せていただいたものです。（編）



4月12日（土）小雨時々どしゃ降り。今回のテーマは「竹」ということで、野菜鉄砲、紙鉄砲、竹トンボ、竹の花器、竹のスコップ、鉢物、ハーブ等が並びました。参加人員は9人でした。

一日中雨で雲が立ちこめてテレビ塔も先の方がかすんで見えませんでした。お客さんはさっぱり現れず暇だったので、焼酎の試飲に何回も通いご機嫌となったMさんは、たまに訪れるお客さんの気を引こうと紙鉄砲や野菜鉄砲を撃ちまくったり、なめらかな口調で人を呼び込んでいました。

もちろん竹工作はやりましたよ。
（中島ひろみ）



4月13日（日）一転して快晴。

うららかな日差しに誘われて大勢の家族連れなどがゲートをくぐって入ってきます。子どもたちは桶の中に入れられた竹の水鉄砲をめざとく見つけて遊び始めます。しかし初期のパチンコ台のように、手作りの水鉄砲は微妙に手加減をしないとま

く飛びません。スイッチポンに慣れた子ども達には新鮮な驚きで、ムキになって取り組み、成功したときは満面の笑みです。次に台の上の紙鉄砲に目が移り、今度こそ簡単に出来ると思うのですが、「それは難しいよ。あなたには無理ネ。」と言うと、あきらめる子もいれば、かえって闘志をあおられる子どもも多くいて、親から百円玉をもらってお買い上げとなります。

使い方を教え、しばらくすると「おばさん、うまくなったよ！」と報告子や「また来年も来てね。」

という子もいました。

派手で趣向を凝らしたブースが多々ある中で、子ども達の関心を引きつけたのは“自分の感覚”に頼らなければならない、という素朴さだったと思います。そうした子ども達のために来年も続ける必要あり！と感じました。



3月定例活動「第5回萌木まつり」

眞弓 浩二

森くらぶが主催する「萌木まつり」も回を重ね早5回目となった。発足当初を回想すればオアシスの森を取り巻く状況や各地で展開される里山保全活動も大きな変化を見せている。今回はそんな中、森づくりの仲間の交流を深めるという「萌木まつり」の趣旨に添って、周辺各地で同じような森づくり活動をされている団体に広く呼び掛け、一堂に会する催しを試みた。参加していただいた方々は、計24団体にわたる75名のみなさんであった。図は現在確認できる活動団体の一覧であるが、各団体はまたそれぞれのネットワーク団体を構成しており、ここからも名古屋市内を中心に森づくり活動の充実ぶりがみとれる。

午前10時に「集いの広場」に集まった参加者は、まず「オアシスの森」の生みの親の一人である林進教授のお話を伺い、パートナーシップ型森づくりの意義、集団で自己学習するしくみの重要性等、森づくり活動の一つの出発点といえる「オアシスの森」で感慨

深いミニ講演を聞くことができた。

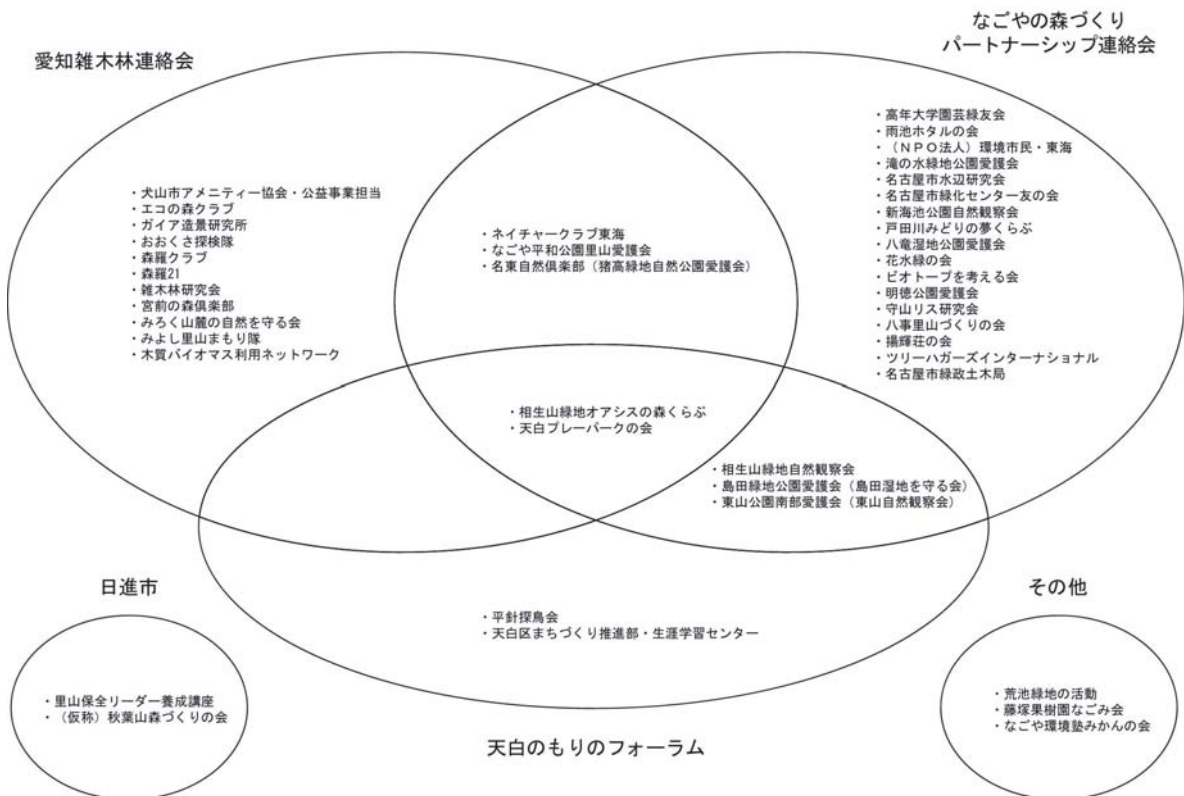


その後午前中は、いくつかのグループに分かれ「森くらぶ」メンバーの案内で森の中を散策した。散策途中では昨日の早朝より「竹炭焼き」を担当してくれた村田さんによる解説や竹炭のお裾分けなどもあった。



お昼には平尾さん、奥村さん、小島さん達が腕によりをかけてくれた暖かい「豚汁」がふるまわれ参加者の好評を得た。

午後は、相生口の竹林で管理活動をおこなったが、初めての方も熟練の方も、みんな一緒に気持ちのいい汗をかくことができ、竹林もまた明るく清々しくなった。



4月20日(日) 特別活動「相生口竹林の春期管理」

眞弓 浩二

4月は草木萌え、命がみなぎる雑木林の季節。相生山オアシスの森にもみずみずしい黄緑色の世界が広がっています。そんな森のエネルギーを感じる代表的なものが「筍」ではないでしょうか。オアシスの森にもいくつかの竹林がありますが、昨年より管理作業を進めている「相生口の竹林」で春期の管理をしようと計画しました。竹林の春期管理とは、今年残す竹を選定することが主な目的ですが、あいにくの雨模様で参加者はゼロ。仕方なく一人で小雨降る中、昨年出た竹に年号を記入する作業をおこないました。モウソウ竹林は一般的に5年目の竹を伐りながら一定の本数を維持していきます。そ

のためタケ年齢の記入はこれを確実に進めるために必要な作業といえます。昨年は筍の盗掘対策を講じたおかげで新筍が林立しました。これにエネルギーを使い果たしてしまったのか、今年は筍の発生も遅く、本数も少ないよう

に感じました。しかし各地の竹林の様子をお聞きすると、この傾向は同様のようです。4月26日午後の定例活動では伊藤(晶)さんにも手伝っていただき、ほぼ全域のタケ年齢を記入することが出来ました。



◀ 小雨に煙る相生口の竹林

2月定例活動「鳥の来る森、来ない森」

近藤 眞史

2月22日の定例活動は、種の多様性を確保する森づくりの一環として、野鳥に着目した講習会が行われました。講師は日本野鳥の会愛知県支部会員の古澤氏にお願いし、野鳥観察や巣箱の清掃を行いながら、一日森の中を歩き回りました。

この日はあいにく曇りのち時々雨という予報で、野鳥観察にはやや不都合な天気でしたが、十数名の参加者には定価550円の「野鳥観察ハンディ図鑑～山野の鳥～」がたったの50円という破格値で配られ、さらに古澤氏が用意してくれたプリントを見ながら、まずはつどいの広場でミニ講義を受けました。

その中で、鳥の餌となる実や種のつく木を大切にすること、鳥の嫌う光を遮る茂みを残すことなど、森の植生管理をしていく上での注意事項をうかがいました。また、鳥を見分ける方法として、スズメ(体長約14.5cm)やムクドリ(約24cm)、キジバト(約33cm)といった馴染みの深い鳥を基準にしたり、波状飛行(波を描き上下

しながら飛ぶ)や滑空など飛び方の違いを見ると覚えやすいということなどを教えていただきました。さらに、鳥が安心できる安全距離として25m程度が目安となり、巣箱を設置する際にも人の通りの道の間際ではなく、なるべく離れたところの方が望ましいというお話も頂きました。

コゲラ



その後、午前中は相生口方面に向かい、図鑑や双眼鏡を片手に野鳥を探しながら森を抜け、周辺の畑にも出かけました。残念ながら特に珍しい鳥には出会えませんでした。それでもコゲラやジョウビタキ、ルリビタキといった可愛い野鳥も見ることが出来ました。

午後は以前設置した巣箱のうち予め古澤氏が下見をして見つけて下さった9つの巣箱を清掃しました。い

ずれも2年以上放っておかれていたため、ほとんどがハチの巣箱と化していました(冬でハチの動きが鈍く危険はありませんでしたが・・・)が、それでも多くの巣箱に鳥が営巣した形跡も残っており、卵の殻が残されたものもありました。清掃した後の巣箱は、鳥が安心して営巣できるよう、人の通る道からやや奥に設置し直しました。

ちなみに、巣箱の掛け下ろしのためにハシゴも用意しましたが、ややコツが必要ながら竹竿でも充分にでき、その点では巣箱の維持管理もそれほど大変ではないと感じました。(いくら軽量とはいえ、ハシゴをかついで森を歩き回るのは大変ですもんね。)やはり年に1回程度は清掃が必要だそうなので、また来年もこのような活動をしたいですね。



ジョウビタキ

2003年度総会報告

近藤 眞史

4月26日(土)午前10時より相生コミュニティセンターで「2003年度総会」が行われました。そこで議決した内容について報告します。(会員方々には別途詳報します。)

1. 2003年度役員

今年度の役員は、昨年度から引き続き以下のメンバーで決定しました。

●オアシスの森くらぶ

会長：永田 修二

副会長(兼運営委員長)：眞弓 浩二

会計：村田 英二

会計監査：小池 敦夫

書記：近藤 眞史

運営副委員長：大館 学

事務局：伊藤百寿人、中島巳治男

●オアシスの森公園愛護会
会長：五十川 幸夫2. 2003年度活動計画
(定例活動は下記のとおり)

3. その他

その他の議題として“会員名簿の取り扱い”と“賛助会員制度の導入”

について話し合われました。

●会員名簿については、会員のプライバシー保護の観点から、詳細な会員名簿は役員のみが所持し、一般の会員には、昨年度と同様の簡易な名簿を2003年度版としてデータを更新して配布します。

●賛助会員制度については、昨年度までと同様、設けないこととなりました。

以上

6月28日(土) トンボ池周辺グレードアップ作戦

7月26日(土) 森のレスキュー

日本赤十字社から講師を招き、森での活動に役立つ救急行動として止血や包帯の仕方、骨折、脱臼、捻挫への対応などを1日みっちり学びます。もちろん日常的な生活の中でも役立つ内容ですので皆さん是非ご参加下さい。場所は、相生コミセンで行います。

8月23日(土) クラフト講座

どんぐり祭りなどのイベント時、子どもたちにクラフト指導ができるようにするため、管理後の竹を使ったクラフト講座を行います。場所は相生コミセンを予定しています。

9月27日(土) 森の枯れ木管理

くらぶの活動の原点である植生管理です。みんなで思いっきり気持ちの良い汗を流しましょう。

10月25日(土) 第5回どんぐり祭り

11月22日(土) 竹林管理と竹炭焼き

12月27日(土) 松竹梅と野辺の小径・山根口クリーンアップ

1月24日(土) ツツジのグレードアップ柴刈り

2月28日(土) アカマツ林再生

3月27日(土) 第6回萌え木祭り

7月と8月の定例活動は「相生コミセン」で行います。皆さん、お間違えのないように!

● 会員募集中! ●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

- ◆オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。
- ◆公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。
- ◆植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。
- ◆柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。
- ◆その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

○会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

○振り込み先(郵便局)

オアシスの森くらぶ 00860-7-33725
連絡は事務局までどうぞ

定例活動スケジュール

集いの広場
10時集合森くらぶ
情報センター

■参加申込みやお問合せなど

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島巳治男 052-803-9534

■ニュースレターをメールで配信

申込先
e-mail: isoiso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail: masashi_k@muf.biglobe.ne.jp

■ホームページをご覧下さい

e-mail : yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp
URL address :
http://www. amy. hi-ho. ne. jp/yoji-toyo/
mori-club/oac-index.html